

# 2023 明治安田生命 J3 リーグ 第 14 節 vs. SC 相模原

6/18 (日) 19:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



## 2023 J3 順位表 第13節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	富山	24p	+9	22	13	HO
2	鹿児島	22p	+6	19	13	HO
3	愛媛	22p	0	16	16	A●
4	奈良	21p	+8	17	9	
5	松本	21p	+5	25	20	H△
6	長野	20p	+5	21	16	
7	八戸	20p	+4	15	11	A●
8	今治	19p	0	17	17	
9	YS横浜	19p	-1	20	21	H●
10	岐阜	18p	+2	14	12	---
11	FC大阪	18p	-2	10	12	H●
12	岩手	17p	+2	19	17	
13	琉球	17p	-1	16	17	HO
14	沼津	17p	-2	13	15	A△
15	宮崎	17p	-4	10	14	A●
16	讃岐	16p	-10	8	18	AO
17	鳥取	15p	-3	19	22	AO
18	福島	12p	-5	7	12	
19	相模原	10p	-5	14	19	
20	北九州	7p	-8	12	20	A△

## 次回HomeGame

第16節 vs.いわてグルージャ盛岡  
7/2 (日) 19:00  
@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

## 大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

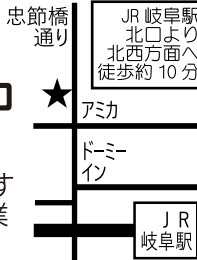
「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

今日もここから  
串かつで一杯

煮込み珍道中  
串かつ

14:30 ~ 22:00  
※売り切れ次第、終了です  
火、水、金、土 (祝日除く) 営業  
TEL. 058-252-1580



## today's guest : SC相模原

2022 J3 6勝7分21敗 勝ち点25:18位

### 直近の対決と結果

2022/10/30  
J3-31節@ギオンズ  
相模原 0-0 岐阜

### ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜	SC相模原
2023/06/11 J3-13節@愛鷹 沼津 0-0 岐阜	2023/06/11 J3-13節@ギオンズ 相模原 1-1 宮崎
2023/06/07 天皇杯2回戦@アイスタ 清水 1-(延長)2 岐阜	2023/06/07 天皇杯2回戦@札幌厚別 札幌 3-0 相模原
2023/06/04 J3-12節@Axis 鳥取 1-2 岐阜	2023/06/03 J3-12節@サンアル 松本 5-3 相模原

●4月からGWまでの4連敗を、ようやく脱したFC岐阜。5/28(日)第11節・ホーム富山戦は、序盤から精力的にボールに迫った岐阜が、前半12分に#8窪田稜からの折り返しを#45ンドカ・チャールスが押し込んで先制して前半を終える。後半は富山の攻撃に苦しめられるが、粘り強く守って1-0。上位チーム相手に勝利を掴むことができた。続く6/4(日)第12節・アウェイ鳥取戦では、前半12分に、縦1本のスルーパスに抜け出した#45ンドカのゴールで先制し、後半61分には替わって出場した#18田中順也が追加点。その後1点差に詰め寄られるが、2-1で逃げ切り、リーグ戦3連勝を達成した。そして中2日で迎えた、6/7(水)天皇杯2回戦・清水戦。互いにメンバーを大幅に入れ替えて臨んだ試合は、後半に1点ずつを奪って延長戦に。その延長前半に#6北龍磨が2点目を決めると、延長後半は粘り強く守り切って2-1。カテゴリーが上・J2のチームを倒して3回戦進出を決めた。そして、リーグ戦4連勝が掛かった6/11(日)第13節・アウェイ沼津戦。互いにチャンスを作る試合展開だったが、相手の切り替えの早さや自分たちの最後の精度の問題で、互いに決めきることができない。そのまま0-0に終わり、FC岐阜はリーグ戦4連勝を達成することはできなかった。

この4試合の結果、FC岐阜は天皇杯では7/12(水)に3回戦でJ1・福岡との対戦が決定した。また、リーグ戦では順位が10位に上昇。ようやく、「トップハーフ」に入ることができ、勝敗も同数に戻ってきた。そして、首位・富山との勝点差が6、2位・鹿児島との勝点差は4。今季のJ3は大混戦が続き、未だに首位から15位(つまり3/4)が勝点差7にひしめき合う状況だ。さらに、上位チームが下位チーム相手に勝点3を取りこぼす試合も続いている。したがって、ここから勝利を積み重ねることができれば、一気に上位進出も狙えるが、逆に再び連敗すれば、下位に再転落することになる。どの対戦相手にも、最後まで必死に走って激しく戦い、目の前の1試合毎に勝ち続けることが、本当に重要になってきている。ましてや今節はホーム戦。多くのサポーターの目の前で、しっかりと勝利する姿を見せて欲しい。

さて、今節の対戦相手はSC相模原だ。昨季は1年でのJ2復帰を目指して、昨季の岐阜と同様にベテラン選手を揃えて臨んだが、結果は最下位(18位)。今季からは、DeNAが経営権を取得し、元日本代表の戸田和幸氏を監督に招へい。そして今季の岐阜と同様に、大卒を含む若手選手を大量に獲得して選手・スタッフを入れ替え、大幅に若返りを図って再出発をしている。現在のところ、なかなか勝ち切ることができずにいるために順位は19位だが、負け数で比較すれば岐阜と同じ。そして我々が4連敗から立て直してきているのと同様に(あるいは最下位だったYS横浜が現在は9位にいるように)、相模原が立て直してこないとは限らない。簡単な試合などひとつも無いことを肝に銘じて、しっかりと戦うことが求められている。相模原との通算対戦成績は1勝2分1敗・4得点4失点と全くの互角。昨季5/15(日)第9節・ホーム戦は2-0で勝利したが、昨季10/30(日)第31節・アウェイ戦では0-0。そして今日の対戦では、昨季まで相模原に所属していた#40川上竜と、#15浮田健誠の活躍に期待したい。両選手とも普段以上に気持ちを込めたプレーを見せてくれるはずだ。なお、相模原の#23左部開斗は岐阜の#26羽田一平と昨年まで桐蔭横浜大でのチームメイトだが、対戦が実現するかは微妙なところだ。

少し明るい兆しが見えてきているが、それでもまだ、リーグ戦は2/3残されており、気を緩める状態では決して無い。そして、勝利するためには最後まで走り続けることが本当に大事なことだと、改めて僕は痛感したはずだ。だからこそ、最後まで選手たちが走りきることができるよう、僕らFC岐阜サポーターの応援で気持ちを鼓舞し、背中を押し続けよう。そして、今夜もまた、勝利の歓喜を選手たちと分かち合い、共に“HYPER CHANT”を歌おうじゃないか。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第11節】岐阜 1-0 富山

●スコア以上に内容で完勝なゲームであったかと。かなり綿密なスカウティングを行ったのか、富山のストロングポイントをことごとく消して、90分を通して富山に決定的なシーンを作らせることがほぼなかったかな（さすがに終盤は押し込まれはしたが）。CBに藤谷匠が復帰して、守備の安定度が増したのは大きいね。

決勝点はその匠からのロングボール。絶妙なコントロールのボールを窪田稜が上手く収めて裏に抜けた時点でほぼ勝負あったかと。富山のGKがかなりニアに寄せていたこともあって、中に送られたボールをンドカ・チャールスは合わせるだけ。存外早い時間帯に点を取れたのは良かった。逆に富山はかなりゲームプランが狂ったのではないかと。そして前述のようにストロングポイントを消されてチグハグなままゲームを終えることになってしまったかな。

あと攻撃面で目立ったのは村田透馬。得点こそ挙げられなかったが、ボールを持ったら積極的にドリブルで仕掛けて、カットインも見せるなど精力的な動きが目についた。村田の復帰で両サイドから仕掛けられるようになったのは大きい。右サイドバックに入った松本歩夢も、オーバーラップや良いクロスを上げるなど、窪田との連携が良かった。

岐阜の良いところが多かったゲームではあったが、個人的に引っ掛かったのは柏木陽介の投入。さすがにケガ明けの初公式戦だけに、2-0もしくは3-0くらいの展開になれば（あるいはその逆の展開）10分くらい試運転の意味合いも含めて投入も有り得るかなとは思っていたけど、上野さんかなりギャンブルだなあと考えたのが正直な感想。これで逆転を許すような展開になったら、上野さんの采配力を問われかねないことになるのではと思ったけれど、結果としては杞憂に終わったので何より。

これで天皇杯含めて公式戦は4連勝。上位と勝ち点に大きな差はなく、ひとつひとつ大事に戦って、コツコツ差を詰めていきたいところ。（岐阜の誇り）

●讃岐に勝利して、連敗は4でストップできた。だけどこの日の試合は、好調の富山が相手。ここで上位チームを倒すことが出来れば、チームに自信が生まれるし、勢いも出てくるだろう。だけど、かなり厳しく苦しい試合になるだろう、と試合前に僕は思っていた。そして、前半12分に#17藤谷匠のロングボールを#8窪田が上手く中央に折り返し、ゴール前に走り込んでいた#45チャーが身体ごと押し込んで先制点を決めた後でも、その不安は消えなかった。

ところが、だ。意外なほど、それほど富山の攻撃が機能していない。その理由のひとつは、おそらく富山が新しい選手を起用した（つまり下位の岐阜だからターンオーバーした（苦笑））ことで、今までの攻守のバランスが崩れたんだと思う。だけど、それ以上に、岐阜の選手たちの迫力あるプレーが素晴らしかった。必死に走ってボールに食らいつき、攻守の切り替えも素早い。貪欲にシュートも狙っていく。前半に#11藤岡浩介がゴール前で撃ったシュート、あれは入ったと思ったんだけどなあ……（苦笑）。まあ、点が獲れなくて悩むと、あそこで外しちゃうんだよねえ……早くゴールを決めて、調子を上げて行って欲しいところです。あと、#45チャーのプレースタイルが少し変わった？天皇杯1回戦あたりから、背中で相手を押さえ込んでボールを受ける、今まで見なかったプレーが出るようになったと思う。決めるべきところで2点差にして、気持ち的に楽な試合展開にしたかったけれど、ただまあ、1点差だったからこそ、最後まで集中して緊迫した試合になった、ということも言えるから、これは難しい評価。そして、エースの#39高橋駿太が何も出来ずに途中交代したんだから、富山対策はズバリと的中したんだらう。試合終盤は富山が猛攻を仕掛けてきたけれど、最後まで集中した守りでウノゼロ勝利。こーゆー試合を普段からやってくれよと小一時間ほど説教したい気分になりながら（苦笑）、心地よい疲労でスタジア

ムを後にしたのでした。（ささたく）

●うーん、どうしちゃったんだ？ウチの選手たち。ロングパス→クロス→シュートで、ゴールを決めるなんて。やられたコトはあっても、やったコトなんて……、ねえ？こんな縦パスが出来るってバレたら、引き抜かれちゃうんじゃないかと心配になるよ。あんまり、目立つコトするなよ？>タクミ。リョウのトラップもお見事でした。

富山の危ないシュートもあったけど、きっちり抑えた前半。さらに、後半もソレが続いて、「タイタイ、交代させる選手が見当たらないよ？」とすら思ったね。そんな矢先の選手交替。陽介、お帰りなさい！とはいえ、この試合で入れるべきだったか、どうか。まあ、それだけ信頼が厚いんでしょうね。AT長すぎ問題は発生したけど（ボールがラインを割るか、ウチのボールになるまで止める気がねえぞ、この主審……と思った）、見事な連続完封勝利。これで2連勝！よかった、よかった。鳥取遠征が楽しみだねえ。（ぐん、）

●はじめに。このテキストには「まったくわからない」が（これを除いて）3回出てきます（笑）。

さて試合。「ダウングレードした快勝」だった。「『完勝』に出来るはずだった『快勝』」、そんな感じ。正直言って、この試合だけ視れば富山がリーグ上位にいる理由がまったくわからない。これは富山を腐しているのではなくて、岐阜が富山のいいところをほぼ出させなかったから。この試合を観て「富山のストロングポイントは？」と訊かれたらぼくはカタまってしまふよ。

岐阜の方は、タクミがCBに復帰してから安定感が増したし（決勝点もタクミのロング・フィードからだった）、トーマが復帰したことでサイドからの『仕掛人』がリョウ君だけじゃなくなって、相手守備陣にはかなりの脅威になっただろう。相変わらずコースケとチャーリーを組ませる上野監督の采配はいまだにまったくわからないのだけど、チャーリーはちゃんとゴール前にかぶせてきて先制&決勝ゴールをゲット。ただ、残念ながらコースケがいまだに『噴いて』くれない。「いじわるバーさん」に嫌われた前半のシーン、あれは少なくとも『枠の内側』には蹴っておかないと。ノー・プレッシャーだったのだから。ホントに、あれを入れておけば『完勝』と言えるまでのゲームになったんじゃないかな。

そんな試合だったけど、最大のモヤモヤは最初の交代カードが柏木だったこと。いや、柏木がケガから復帰したのは嬉しいよ。めちゃくちゃ嬉しいよ。でも、なぜ「この試合」の「あの時間」だったのか。目下、ボランチでOJT真っ最中のオイちゃんをサイドに出してまで。まったくわからない。試合後の観戦仲間との感想戦でも「戦術的交代ではない」で見解は一致していた。スコアは1-0、いわゆる「よし勝ったな、風呂でも入るか」な状況ではない（岐阜がずっと押していたけど、ハードラックで失点する可能性だってあった）。リーグ戦は次節から2試合連続でアウェー。もし「ホームで復帰をお披露目する」ための交代だったとしたら、少々残念ではある。もちろん、プロサッカーなんだから『興行』的視座だって大事なんだけどね。（吉田 Casting）

## 【第12節】鳥取 1-2 岐阜

●リーグ戦3連勝の掛かったアウェイ鳥取戦。こういう調子の上がってきた時にポカをして、また振り出しに戻る……みたいなシーズンを繰り返してきているので、試合前には期待より不安の方が大きいのは、心配性の僕だけなのでしょう（苦笑）。

さて、試合は序盤からボールを支配して攻め込む鳥取に対して、少し受けてしまう形になる岐阜。それでも、ここ数試合で見られるようになってきた粘り強い守備で、決定的な場面は作らせない（これってやっぱり、対人能力に優れた#17藤谷匠と、カバーリングに長けた#40川上竜のCBコンビが理由かしら？）。すると、自陣でボールを奪った#11藤岡浩介が、

## 【天皇杯】清水 1-2(延長) 岐阜

縦へ長いスルーパスで鳥取DFの裏へ。抜け出した#45チャーターがGKをかわして先制点！で、ここから岐阜の流れに……と思ったけれど、そのまま鳥取の時間帯が続いて前半終了。後半になると、岐阜は#18田中順也、#42 柏木陽介という、ある意味豪華なベテラン2人を投入。すると直後に、鳥取陣内でのプレスで岐阜がボールを奪うと、ゴールまで距離がある場所にも関わらず、GKを軽く抜いて左足で流し込んで追加点！いやー、これこそベテランの味。ああいう冷静な戦術判断と正確かつ素早いプレーを、若い選手たちには少しでも身につけて欲しいものです。

ただ、その後がいけなかった。軽い守備と連携ミスで1点を返されてしまう。なんとか逃げ切ったものの、あれはしっかりと反省して欲しい。あと、反省しなくてはいけないのは#7村田透馬。2点目のボール奪取は素晴らしかったけれど、イライラして相手を突き飛ばしたら警告、下手したら退場だったのは子供だって知ってることでしょ？思いっきり叱られてください。

あまり良い流れの試合ではなかったけれど、勝って結果を出すことが大事。こういう粘り強い全員守備が今後も続けられるのなら……と、3連勝したけれど、逆に僕は欲が出てしまつて。まだまだ勝ち足りない、まだこれから……と冷静になろうとしてしまうのでした(苦笑)。(ささたく)

●久しぶりの現地観戦。YS戦以来だから、まるっと一か月ぶりかな？一般入場の15分前に到着。しかし、以前にも思ったけど、この駐車場。早く着いた順から奥に入れる。だから、先着したヒトほど出庫が遅くなる。それがちょっとなあ……。まあ、整理する方としては当然なんだろうが(苦笑)。あと、出口に数名の担当を置くより、駐車場内の整理担当を置いてもらいたい。いくら、入場者数が1,700 ちょいでも待機列割り込みアチコチの無法状態だった。

けど、そんなことも一笑に付せるような勝ち点3。連勝！連勝！！3連勝!!! いや、まあ、そこまで手放しで喜べるか、というね。チャーリー、TJがよくぞ落ち着いて決めてくれた、という感じ。何回かあった決定機に枠外。プリンスはなかなか、風が吹いてこないねえ。

残念だったのはトーマ。何をイラついてたかは知らんが、相手に手を出したらカード。そんなん、わかりきってるでしょ？ ホント、余分。猛省を促したい。その一枚が最終盤での命運に繋がるやもしれんぞ？それでも、最後はしっかり5バックで逃げ切り。よく頑張りました。

全体的な感想としては「ガイナ、コワイよ、ガイナ。」でした。そういや、途中で下がったけど、富樫が元気そうでなにより。ヤバイシュートを含め、いろいろ怖かった。長良川にも来て、ほしい。恩返し弾はいらんけど。

久しぶりのバックスタンド。気がついたら、腕と膝下が真っ赤だった。これからは日焼け止めをしっかりとやらなきゃね。(ぐん)

●DAZN 観戦。チャーリーの先制点、彼はああいうスピード勝負の局面になると生きる。たなじゅんから「狙っていけ」と言われていたらいいね。2点めはたなじゅん。焦らずに(本人は「焦ってた」そうだけど)決めきるところはさすがでした。トーマは……うーん、とりあえず庄司と宇賀神と柏木にトイレでシメられなさい。いえね、2003年の東アジア選手権・韓国戦で大久保嘉人がシミュレーションで2枚目の警告→前半で退場、激怒した都築龍太が試合後にトイレに大久保を呼び出してシメた、ってエピソードがありまして(苦笑)。(吉田 铸造)

●リーグ戦3連勝を達成して、中2日で敵地に乗り込んで開催される天皇杯2回戦。ここで無理して、せっかく順位も調子も上向きになってきたリーグ戦を再びダメにしたくない。だから、今日はターンオーバーすれば良いと思ってたし、実際にスタメンを見ても納得。清水もターンオーバーしてきたし、あとは良い試合をしてくれば良いや、と思っていたことを懺悔と共に告白します(苦笑)。

だけど、やっぱり岐阜の選手たちは気持ちの入り方が違っていた。自分たちがリーグ戦で出場できていない。しかも対戦相手は(昨季まで)J1だった)オリジナル10の清水。絶対に清水を倒してやろう、この試合でアピールして、スタメンを奪ってやるんだという強い気持ちが、プレーから溢れていた。一方の清水は……うん、相手を舐めてたというか、油断してたように見えた。まあ僕らも1回戦では新潟医療福祉大に苦戦したから、人のこと言えないんですが(苦笑)。後半75分の#48 田口裕也の先制点にはホント痺れた。その後は清水の反撃を受けて、ハンドでPKを与えてしまつて同点に。だけど、直後に円陣組んで、チーム意識を再統一させて、まだ全然諦めていなくて。そしたら延長前半13分に、相手DFのクリアミスを詰めてた#6北龍磨のゴール！……まあ、その後の20分ぐらいは無限とも思えるような長さでしたけどね(苦笑)。それでも、相手のミスにも助けられ、シュート合計16本撃たれながらも、根気強く走りきって守り切つて、2-1。いやー、こういう試合を見ると、やっぱりサッカーって、最後に重要なのは、最後の一步、最後の一蹴りを出せるかどうかのメンタルですよな(笑)。カテゴリー上のチームに勝つたのって、2009年天皇杯の千葉戦以来かしら？去年もG大阪相手に45分間は夢見てたんですが(苦笑)、今回は現実になりました。あと、公式戦5連勝(天皇杯県代表戦を入れたら6連勝)はクラブ記録ですね？おめでとうございます！(ただし、#24 上野輝人の負傷退場、全治3か月はちょっとダメージ。無理せず復帰することを願っています)

この勝利は、上野監督にとっても、温存されたリーグ戦スタメン勢にとっても、嬉しい悩みだろう。ベンチ勢が結果を出した。スタメン勢も自分のポジションを確保するために、さらに必死になるだろう。今まで果たせていない、『チームの底上げ』が、ようやく実現するかもしれない。そんな2重の喜びが溢れる試合結果だった。(ささたく)

●関の声に目を覚まし、決戦の場となった日本平に連なる久能山東照宮から高みの見物をしておられた権現様、江戸幕府の開祖も「やりおった！此奴ら、見事にしてのけたわ。天晴れじゃ！」と感嘆されたとか、されなかったとか。そんな大風呂敷も広げたくなるような、実に見事な戦いぶり。現地に来てよかった。心底、そう思えた試合。いつ以来だろ？ノドがカスれるなんて……。

発表されたスタメンを見て「香ばしい。実に香ばしいメンバーだ。」と思わず笑ってしまったことを告白します。スタメン総取替え。直前の鳥取戦のスタメンはサブのリョウとオイちゃんのみ。そして、負傷交替や延長戦になったからとはいえ、マツタク以外の全員が出場。文字通り『総力戦』で掴み取つたこの勝利。デカイよ！

しかし、このメンツがこれほどまでのサッカーを見せてくれるとはね。想像だにしていなかった……。ごめんなさい！清水は確かに上手かった。サイドチェンジの正確さとか、それを受けるトラップとか。それでも、そんなコトはどこ吹く風とばかりに受けて立つウチの選手達。逆サイドに展開されるコトはあっても、ゴール前のファーサイドをガラ空にするコトはなかったように思う。粘り強く、切れるコトなく戦い抜いてくれた。攻撃面でも、シュートにまでは至らなかったが、前の選手だけじゃなく、3列目から龍磨や和音がペナルティ・エリアに入ってきて、ずいぶん分厚くヤレた気がする。

それにしても、美しかった先制点。グラウンダーのクロスに裕也が反応した時点でゴール確信。PKはもったいなかったけどやむなし。チョルファンもアレは止められない。それ以外を見事に防いでくれた。感謝しかないよ。それから、失点後の円陣。シビれたなあ。スゲ〜よ、ウチの選手達は。延長になっても集中を切らすことなく、しっかりとこぼれ球を押し込んだ決勝点。アディショナル・タイムも最初は【1分】と出たのに、アナウンスで【2分】に訂正。それでも、最後まで切らすコトがなかった集中力。ホント、すごかったよ、天晴れだよ。でもって、アディショナル・タイム突入前から切り出された『アイデア』。思わず釣られて、声が出て、足も動き出してゴール前まで行っちゃった。根性見せたなあ>コルリ  
久しぶりに『アイデア』を堪能したよ。いつやってもたままないね！

本戦2勝っていつ以来？熊谷？長良川での天皇杯本戦も久しぶり。福岡か、山岸とタナタツ。楽しみしかないね！（ぐん、）

●JFA TVでわかりやすい動画ハイライトがあったんで確認。岐阜のゴールは2点とも右サイド（清水の左SBの裏）から。いい展開でした。先制点の田口のポジショニングも素晴らしかった。

『鑄造総研』から記録コーナー（笑）。FC岐阜が天皇杯で「格上」に勝利したのは、熊谷でJ1（当時）千葉に1-0で勝利した第89回（2009年）以来2度目。今年の3回戦・福岡戦（7/12）は長良川開催が発表になりましたが、前回の天皇杯@長良川は第97回（2017年）の対広島、2-3で敗れています。（吉田鑄造）

## 【第13節】沼津0-0岐阜

●リーグ戦3連勝中。J2・清水にも勝って、中3日の3連戦目。とはいえ、ターンオーバーしてるし、スタメン勢は絶対に負けられないと気合いが入っているだろうから、今日もやってくれるはず……と、雨の中でも沼津に駆けつけた岐阜サポは200人を超えていただろうか。

さてスタメンは…#42 柏木陽介がスタメン復帰して、#14 生地慶充が右SB。ただ、結果的には、この選手起用が良くなかったように僕は思う。慣れていない#14 生地の動きが鈍かったし、今の岐阜には中盤には運動量のある若手選手が必要だと思うんだけど、それが欠けた。そして#45 チャーや他の選手たちの動きも、あまりよろしくない。あまりにベンチ勢を意識しすぎて、練習しすぎて疲労が回復していないのでは？と思えたほどだ。後半ゴール前でわずかに#45 チャーがフリーになったシーン、あれは決めてくれ…シュート練習してますよね？ああいう決定機を逃がしていると、勝利が積み上がらなくなる危機感が増えてしまいます。それと、（富山戦とは逆に）沼津の術中に嵌まっていたようにも思う。こちらの動きを観察しつつ、ショートカウンターでゴールを狙う。そこで僕が少し気になったのは、沼津のスタッフは、ゴン中山監督を含めて、ほとんど誰も試合中にコーチングエリアに出てこなかったこと。で、試合後に調べてみると…あら、ゴン中山とジュビロ黄金時代を築いた（そしてジュビロでコーチや監督を務めた）鈴木秀人が今季からヘッドコーチなのね。彼が守備面の担当をしているのだから、沼津も侮れないチームになるかもしれない…というか、いつも向こうが下位にいるのに、相性悪くて負けるイメージの方が強いんですが（苦笑）。

結局、スコアレスドロー。調子が悪い試合でも、失点をせずアウェイで勝点1を持ち帰れたとポジティブに評価したいけれど、強いチームは調子が悪いなりに勝ちますからね…まだまだ、これからだと再認識しました。

それと、これで次節の相模原戦のメンバーが非常に興味深いものになった。誰を起用するのか、まずはそこから注目したい。もちろん、誰が今節のヒーローになるのかも、要注目です！（ささたく）

●残念ながら遠征出来ず、DAZNでの観戦。画面を見て「えっ？」となったのがコルリの位置。最前線じゃなくて最後方？初めて見たよ、こんなの。どうなってんの？……と思ったら、先日、試合中に手すりが壊れた影響で【立入禁止】になってたのか……。いろいろ要因はあるのですが、早期に改修されるよう願っております。とにかく、難しい状況でのリード、お疲れ様でした>コルリ。

さて、試合。スコアレス・ドローという結果には納得です。双方にチャンス、決定機がありながらの無得点。ウチで言えば、後半のチャーリーが噴かしたヤツ。「枠内に行っていれば……」みたいなシュート。もちろん、モギシューのファイン・セーブを忘れちゃいけない。いったい、何点防いでくれたかな？リーグ戦は讃岐戦から4試合で失点が1。そりゃ、勝ち点積み上がるよね。

とはいえ、守備を安心して見ていられるか？というよね。この試合も右サイドから何回もピンチが。右SBにオイちゃんを配置したんだから、ある程度はしかたない。ただ、その分、攻撃の基点になった。基点が増えた……というようになってもらいたい。もちろん、本職のボランチで柏木、庄司からレギュラー取ってくれてもイイんだよ？というか、そうやってくれないと困る。今後に期待です！

それにしても、なかなかカンタンには勝たせてくれないね>愛鷹広域公園陸上競技場。（ぐん、）